

令和2年度 大阪府立槻の木高等学校 第2回 学校運営協議会 記録

会議の日時及び場所 令和2年度10月24日(土) 10時00～11時45分 槻の木高等学校 記念室

出席者 浅野 良一 委員、田中 隆夫 委員、宮坂 政宏 委員、山本 冬彦 委員、横山 寛 委員、大西 雅美 校長、事務局教職員3名、書記1名

1. 開会

2. 令和2年度学校経営計画進捗状況について

- ・学校経営計画及び学校評価における「本年度の取組内容及び自己評価」について、9月30日現在の進捗状況をまとめている。それぞれの項目について、担当する各室・課・係、学年、教科、プロジェクトチームでのまとめを集約した。
- ・「1 (1) 学力及び学びに向かう力のさらなる向上と進路実現」では、主に各教科での取り組みをまとめている。評価を数字で表すのは難しいが、一日の平均学習時間は定点観測している。
- ・生徒との面談の回数は、教員がきめ細やかに行っており、例年どおりの数字となっている。
- ・新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休業の影響で、前期は7月以降の土曜日に授業を実施しており、土曜講習を行うことができなかったが、後期は学力テストを含め、再開した。
- ・今年度の教育課程協議会(新高等学校学習指導要領—観点別学習状況評価の実施に向けて—)は、教育センターより動画配信されたため、校内研修の一環として、全教員が総則部会及び各教科の内容を年内に受講することとしている。
- ・オンライン授業、GIGAスクール構想の実施に向けて、プロジェクトチームを中心として職員研修を実施すると共に、必要物品を購入した。今後も、校内ネットワーク機器整備(Wi-Fi環境等)のための工事等を実施していく。
- ・連絡のない寝坊などによる遅刻の数は、例年通り1日あたり1人いるかどうかの数値である。
- ・8月に予定していたオーストラリアへの海外研修旅行は中止とした。今年1月に行ったタイのルンアルン学園の生徒とのビデオレター交流やイングリッシュカフェ等の取組みを実施した。
- ・体育大会は中止となったが、文化祭は実施した。ただし、保護者や来賓等の来校はご遠慮いただいた。生徒達は劇などの活動をマスクを着用して行ったが、他学年と交流できるいい機会となった。
- ・PTA総会は書面で実施、広報紙も今年度は2回の発行(例年3回)等、規模を縮小してPTA活動を継続している。
- ・学校への電話の自動応答システムを導入し、原則時間外の応答をなくした。保護者や生徒からの時間外の緊急連絡は、学校代表メールへもらうこととなっている。
- ・中学生(及びその保護者)向けの学校説明会については、普通科単位制としての学校の特色を伝える必要性から、8月に2回、10月に1回実施済み。例年は人数制限を設けていなかったが、会場の座席に十分な間隔をとるため、今年度は学校ホームページで事前予約を行い実施している。

例年であればオープンスクールを行っている10月17日は、各クラブの代表者の挨拶やクラブ見学を取り入れた「生徒が主役の学校説明会」とし、受付や誘導についても生徒が対応した。受付では、手作りのビニールシートを活用し、感染症対策を行った。(説明会では、全員マスク着用、手指消毒、来校者健康観察カード記入依頼、在校生・教員の健康観察、換気、会場の消毒等の新型コロナウイルス感染症対策を実施。)

3. 前期授業アンケートについて

- ・授業アンケートについては、例年7月に実施している前期アンケートを8月上旬に実施した。
- ・アンケート項目については、府の「授業評価ガイドラインⅢ」を踏まえて一部変更した。(質問8、9は全校共通。その他もほぼ府のひな型通りに変更。)
- ・質問項目の内容が大幅変更になったのは、質問6。アンケート結果は、質問6で昨年度より満足度が下がっているが、内容からみて妥当だと考えている。(質問6(昨年度まで)(講義形式)先生の声や話し方は聞き取りやすく、わかりやすい。⇒(今年度)(講義形式)生徒が自ら考える時間や発表する活動を多く取り入れている。)

#### 4. 新教育課程について

- ・新しい教育課程編成のため、昨年度よりプロジェクトチームを立ち上げ、各教科代表ではなく、少人数で検討している。カリキュラムはどういった方向で生徒を育てていくかの指針になるため非常に責任のある作業である。単位制という特色をどのように生かしていくか、また、大学進学のためだけではなく社会に出ていった時に役立つ力が身につくものとした。プロジェクトチームで話し合った内容は職員会議等で全体へ連絡し、必要に応じて各教科の意見を集約している。
- ・現状、芸術選択者は3年生では少ない。昔はもう少し多かった。受験に必要な科目を選択するような誘導があるという見方もあり、受験に必要な科目もそうでない科目も選択することができるように心がけている。
- ・国語、社会に関しては新カリキュラムが導入され大きな変更がある。
- ・各大学が何を求めているのかを把握する必要があるため、大学入試センターが公表した「大学入学共通テストの出題教科・科目等の検討状況」を参考にカリキュラムを作成している。現在、1年生のカリキュラムがおおよそ完成したところ。

#### 5. オンラインでの課題の配信と提出について

- ・「オンライン授業PT」を中心として、オンライン授業の試行を10月12日に行った。  
各教科のグーグルクラスルーム上で、各学年2教科ずつそれぞれの授業に関する課題を与え、生徒が回答することができるかという方法で実施した。回答できなかった生徒には個別に理由を確認。1・2年生は全員回答、3年生は3名のみ回答することができなかった。(貸し出し用パソコン準備済み)  
回答の提出状況はクラスルーム上で見ることもできるし、エクセルのデータに書き出して一覧表として見ることもできるため、様々な方法で評価へ活かすことができる。すべての授業で使用することは難しいが少しずつ準備が整っている。
- ・「探究する授業PT」を中心として、学校での授業で必要に応じてICTを活用することができるように、全教室にハンディマグネットスクリーンを購入した。(令和2年3月に全教室にプロジェクター設置済み)  
また、「オンライン授業PT」と協力して、映像授業を行うためのタブレット、ビデオカメラ、三脚、マイク等の機器も購入した。ICT機器を活用する授業の研究授業を後期に実施している。

#### 6. 生活指導室からの報告

- ・全体的な生徒の様子について  
あらゆる場面でこれまで行っていた活動ができない部分があるが、できる範囲で自らのできることに取り組んでいる様子が見受けられる。
- ・遅刻に関して  
昨年度と比べると、遅刻の件数は減少している。今年度は土曜日の授業や考査など今までになかった活動が遅刻の原因となっている生徒が多く見られる。時間間際に駆け込んでくる生徒はほとんど見られない。
- ・身だしなみについて  
今年度特に多いのは第一ボタンの締め忘れ。スカート丈の注意は例年に比べると、1年生で少し多い。
- ・自転車事故  
前期4件の登校中の事故あり。後期は気温が下がるため、改めて注意喚起が必要と考えている。

#### 7. 協議（返答のあるものは、矢印（⇒）以下に記載）

##### ○授業アンケートについて

- ・学習時間が確保されている学校で難易度が適切なのはさすが榎の木である。8・9の質問は全校共通だと言っていたが、他校の結果はどうだろうか。
- ⇒他校の結果はわからないが、本校はよくやっているのではないかと思う。授業評価は、これがすべてというわけではなく、校長・教頭で授業観察を行う等、総合的に判断している。
- ・管理職の授業観察とアンケートの結果はそれほど差がないと思われるが、どうですか。

⇒授業アンケート結果は、教科・科目の特性等による影響もあるように思う。授業観察結果と、アンケート結果に大きな乖離があることはない。

- ・「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と回答したものに対して、なぜこのような回答になるのか、対策する必要があるのかを検討する必要がある。生徒が授業の方針に納得していないのであれば、納得させる必要がある。
- ・質問6の「多く」は、槻の木では必要ないのではないかと。

#### ○1年生への長期にわたる臨時休業の影響について

- ・長い臨時休業の影響で1年生が槻の木生として成熟していく機会が少なかったと思われるが、学校行事での伝統や誇りの育成、部活動での役割意識はどうか。

⇒部活動等で上位学年の生徒に接することで、槻の木での規律や学習態度を学んでいると思われる。今年は体育大会ができなかったので、文化祭のクラス活動で、他の学年やクラスの生徒がどのような活動をしているのかに興味を持っていた。特に、3年生の劇には刺激を受けていたようだ。

⇒分散登校開始時は生徒には不安が見られたが、現在は落ち着いているように思われる。生活習慣の指導に関しては例年と比べて時間がかかっている。後期になり、生徒との関係性ができてきたため、これから必要に応じ厳しい指導もしていく予定である。クラブ活動では、3年生と一緒に活動する機会がほとんどなかったため、憧れとするものが少ないように思う。

#### ○探究型の研究活動等の将来構想について

- ・学力向上、生徒指導を二本柱とし、規律ある進学校としてここまでやってきたが、足りてないこととして探究型の課題研究や社会に開かれた教育課程があると思われる。従来型の進路指導と生徒指導の両輪でいくのか、探究型の方向へと変えていくのか。

⇒今まで作ってきたものを守っていくことを重視している。他校では探究型の研究で結果が出ていることもわかっているが、まだ本校の生徒は力が足りていない。基礎を固めることが重要である。

⇒本校の生徒は礼儀正しいが家庭や学校での指導の結果であり、誰かの指示のおかげである。日々の積み重ねで自学自習の習慣が身につけている。アクティブラーニングに関しても、教員の指示があるから生徒は考えているように思われ、自ら課題を見つけて研究するのは実際には難しい。1・2年生のうちに基礎を身につけ、3年生の時に主体的に考える力を身につけたい。新カリキュラムでは2年生の後期以降に課題研究のような授業をいれていくことも検討している。

- ・生徒が主体的に物事を考えるためには先生からの問いかけが非常に重要である。漠然とではなく具体的に考えるには、問いかけが必要であり、生徒が考えたいと思える場面作りが重要ではないかと。

⇒2年生後期の総合的な探究の授業で、生徒自身が興味を持ったものを調べさせている。最初は自分で考えることは難しいが、繰り返すうちに力は身につくものである。

- ・今の子ども達は、不条理を見つける力、社会に対する憤り等が低い。関心を持つアンテナが必要である。

#### ○生徒面談におけるキャリアパスポートの活用について

- ・生徒面談の際、学校として何かチェック項目を作っているか、また共有されているか。面談の中で、課題意識や学びに対しての取り組みをしているか。

⇒今年度からキャリアパスポートを使用。半年ごとにこれまで何をしていたのか、これから何をしたいのかを自分で書かせている。振り返りを重視し、面談の際に担任が使うことができるように構成している。長期的な目標を生徒と教員が共有できるものとなっている。

⇒キャリアパスポートは今年度からの導入であるが、生徒にとってはもちろん有益なものにしたいし、教員にとっても良いものにとしたい。

#### ○新カリキュラムについて

- ・小学校や中学校はかなり進んでいるので、そういったところから学ぶこともできるのではないかと。

⇒観点別学習評価について、是非学ばせていただきたい。

#### ○オンライン授業における課題について

- ・オンライン授業は、機器や通信状況に制約を受けるが、うまくクリアできているようである。しかしこの機会に、対面授業のメリットを改めて考える必要があるのではないか。
- ・オンライン授業では、各教科の特性に応じて内容を考える必要があるし、教員と生徒の負担が増えることも考えなければならない。
- ・大学での経験だが、例えば、メールで提出のあった学生のレポートを紙媒体で出力するかどうかが問題。(毎授業だと、枚数も多い)しかし、評価する時は紙媒体でないと比べることができない。学生も資料はスマホだけではなく見ることができないため、紙媒体を印刷している。

⇒プリンターやパソコンが無い家庭も多く、全員がオンライン授業のプリントなどを家庭で印刷することは難しい。実際にオンライン授業をするには、課題の量や動画の長さなどを検討する必要がある。今後、分散登校等になった場合、オンラインでの学習をどのように織り交ぜていくのかも課題である。教科や科目の特性も大きく影響すると思われる。プロジェクトチームを中心に検討している。

#### ○芸術等選択希望者が減少していることについて

→新カリの選択科目の中に芸術、家庭科、情報、体育などを入れていくことを検討している。入試に出題されるかどうかにかかわらず選択科目として入れていく。栄養や保育の分野に進学したい生徒にも対応できるように各教科と調整している。現状と同様に、科目によっては特別非常勤講師の先生に来てもらうことも考えている。

#### ○最後に

- ・街で規律正しく行動している槻の木生の姿を見かける。身だしなみがくずれている姿も見られない。先生方の努力の結果だと思う。
- ・コロナの影響で多くのことを自粛されていると思うが、色々なことに触れる機会を作ってあげてほしい。
- ・将来構想をどうするか、是非考えてほしい。
- ・何をどう探究するのか、考えてほしい。
- ・「高大接続」の必要性が言われてきたが、改めて、高校と大学の協力が必要だと感じている。
- ・今後も、心の豊かさを育ててほしい。

#### 8. 閉会

- ・次回は2月5日(金)の午後2時から午後4時の予定
- ・協議会の前に授業見学を予定